

日本思想史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本思想史概論	日本思想史入門	2	片岡 龍	3	前期 金曜日 4講時	
日本思想史概論	人と獣の日本思想史	2	引野 亨輔	4	後期 金曜日 4講時	
日本思想史基礎講読	日本の木版本を読む	2	引野 亨輔	3	前期 金曜日 2講時	
日本思想史基礎講読	近代文語文による文章 を読む	2	片岡 龍	4	後期 金曜日 2講時	
日本思想史各論	水平社・西光万吉論Ⅰ	2	片岡 龍	5	前期 月曜日 3講時	
日本思想史各論	「学校」の思想史	2	引野 亨輔	5	前期 火曜日 4講時	
日本思想史各論	水平社・西光万吉論Ⅱ	2	片岡 龍	6	後期 月曜日 3講時	
日本思想史各論	異界と他界の日本思想 史	2	引野 亨輔	6	後期 火曜日 4講時	
日本思想史演習	日本思想史の諸問題 Ⅰ	2	引野 亨輔.片岡 龍	5	前期 水曜日 3講時	
日本思想史演習	日本思想史の諸問題 Ⅱ	2	片岡 龍.引野 亨輔	6	後期 水曜日 3講時	

科目名：日本思想史概論／ History of Japanese Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB35401, 科目ナンバリング：LHM-PHI201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to the History of Japanese Philosophy

3. 授業の目的と概要：日本思想史上のいくつかのトピックを取り上げながら、日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといった関心を誘うテーマを中心に講義し、また映像資料の感想や参考書の整理等と併せて、小レポート（3回）形式で受講者自身の思考の過程を問う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The lecture focuses on topics that attract interest, such as what is Japan, what is thought (thinking), and what is history, while taking up several topics in the history of Japanese thought.

5. 学習の到達目標：日本とは何か、思想（考える）とは何か、歴史とは何かといったテーマを、受講者自身が思考する姿勢を養成することを目標とする。その過程を通して、日本思想史に対する基礎的知識と関心を高めることを期待する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal is to train students to think about topics such as what is Japan, what is thought, and what is history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：オンライン授業（主としてリアルタイム型遠隔授業）

第1回：ガイダンス、丸山眞男と戦後日本1

第2回：「戦後」とは、丸山眞男と戦後日本2

第3回：丸山眞男「日本の思想」

第4回：加藤周一「雑種文化」

第5回：加藤周一、幽霊と語る

第6回：加藤周一『日本文学史序説』1

第7回：加藤周一『日本文学史序説』2

第8回：原爆体験の結晶化（丸山眞男）

第9回：戦後知識人の限界と見直し

第10回：竹内好と沖縄、思想と運動

第11回：沖縄から「戦前」・「戦中」・「戦後」を見る（阿波根昌鴻1）

第12回：平和と生命（阿波根昌鴻2）

第13回：生活記録運動（鶴見和子1）

第14回：水俣病運動（鶴見和子2）

第15回：災禍と「生前退位」（平成天皇・皇太后）

8. 成績評価方法：

レポート [50%] 出席 [50%]

9. 教科書および参考書：

教科書：資料配布

参考書：丸山 眞男（著）、杉田 敦（編集）『丸山眞男セレクション』（平凡社ライブラリー）

10. 授業時間外学習：小レポート（3回）の準備を中心に、教科書・参考資料（授業時に配布）を学習する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本思想史概論／ History of Japanese Philosophy (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LB45401, 科目ナンバリング：LHM-PHI201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人と獣の日本思想史

2. Course Title (授業題目)：History of Japanese Thought Regarding Humans and Beasts

3. 授業の目的と概要：歴史を叙述することは、人類のみに許された特権的な営為とみなされてきた。しかし、近年ではこうした人間中心主義的な見方に対する批判が高まりをみせている。そこで、本授業では、自然や野生動物といった要素を加味することで、日本の歴史を見直し、人間中心主義的な歴史叙述の是非を検討してみたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Narrating history has long been considered a privileged activity only allowed to humans. However, in recent years, there has been increasing criticism of this anthropocentric view. Therefore, in this course, we will review Japanese history by adding elements such as nature and wildlife, and consider the pros and cons of an anthropocentric historical narrative.

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、自然や野生動物の働きかけに注目して日本の歴史を見直し、偏りのない歴史分析を行えるようになることである。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is for students to be able to review Japanese history by focusing on the influence of nature and wildlife, and to be able to conduct unbiased historical analysis.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 ガイダンス—歴史叙述の特権性—

第2回 ヨーロッパの人と獣—動物裁判を事例として—

第3回 日本に動物裁判はあったか？

第4回 肉食の日本史①—獣の肉を好む神々—

第5回 肉食の日本史②—肉食に対する禁忌意識の高まり—

第6回 肉食の日本史③—禁忌と戦った僧侶たち—

第7回 大開発の江戸時代と自然観の激変

第8回 生類憐み政策の真意①—村は鉄砲を手放したか？—

第9回 生類憐み政策の真意②—農耕と牛馬—

第10回 生類憐み政策の真意③—なぜ「お犬様」は愛護されたか？—

第11回 鷹狩りの政治史

第12回 見世物としての動物

第13回 ペットブームの変遷

第14回 戦争と動物

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

本授業は、授業への参加度 20%、ミニットペーパー 20%、期末試験 60%の割合で評価する。

9. 教科書および参考書：

必要に応じて資料を配付する。

10. 授業時間外学習：各授業の終わりに、より深い理解を目指すための参考文献を紹介するので、適宜自主学習に努めること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本思想史基礎講読／ History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LB35202, 科目ナンバリング：LHM-PHI208J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本の木版本を読む

2. Course Title (授業題目)：Reading Japanese Old Books Printed in Woodblock Prints

3. 授業の目的と概要：江戸時代に商業出版が成立すると、庶民層を対象とする通俗的な書物が数多く出版され、それらは社会に大きな影響を与えた。そこで、本授業では、受講生たちに、江戸時代に出版された幾つかの木版本を読んでもらい、基礎的な史料読解能力と伝統的な文化への理解力を身に付けてもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：When commercial publishing was established in the Edo period, many popular books for the general public were published, which had a major impact on society. In this course, students will read some books printed in woodblock prints published during the Edo period, and through that experience, will acquire basic ability to read historical materials and understand Japanese traditional culture.

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、江戸時代に著された通俗的な書物を解読できるようになることと、木版本から江戸時代の文化的な特徴を理解できるようになることである。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal on this course is to be able to decipher popular books written in the Edo period and to understand the cultural characteristics of the Edo period from woodblock prints.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業では、江戸時代に出版された通俗的な木版本を取り上げ、受講生による読解と発表・討論を通して、史料読解能力の向上を図る。

第 1 回：ガイダンスー江戸時代と商業出版ー

第 2 回：女訓書を読む①ー『女実語教』と居初津奈ー

第 3 回：女訓書を読む②ー『女実語教』と江戸時代の諸思想ー

第 4 回：女訓書を読む③ー『女大学』と貝原益軒ー

第 5 回：女訓書を読む④ー『女大学』と江戸時代の現実ー

第 6 回：古典注釈書を読む①ー『徒然草諺解』と学問入門書ー

第 7 回：古典注釈書を読む②ー『徒然草参考』と仏教的世界観ー

第 8 回：古典注釈書を読む③ー『徒然草抄』と兼好法師ー

第 9 回：古典注釈書を読む④ー『経典余師』と四書ー

第 10 回：古典注釈書を読む⑤ー『経典余師』と近思録ー

第 11 回：パロディー文学を読む①ー『好色一代男』と井原西鶴ー

第 12 回：パロディー文学を読む②ー『仁勢物語』の笑いー

第 13 回：パロディー文学を読む③ー『尤之双紙』と江戸の教養ー

第 14 回：パロディー文学を読む④ー『修紫田舎源氏』の世界ー

第 15 回：まとめ

8. 成績評価方法：

本授業は、1 人 1 回担当する課題発表 40%、各授業中に実施する史料読解チェック 30%、小レポート 30%の割合で評価する。

9. 教科書および参考書：

課題となる木版本のコピーを授業ごとに配付する。

10. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に発表準備を進める。全受講生は、課題史料を事前に読解しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本思想史基礎講読／ History of Japanese Philosophy (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

Semester：4 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB45202, 科目ナンバリング：LHM-PHI208J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近代文語文による文章を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading classical Japanese texts in the late 19th century
3. 授業の目的と概要：近代文語文による文章を精読し、基本的な史料読解能力を身に付ける。具体的には、仙台出身の思想家・新井奥邃（あらい おうすい、1846-1922）の語録を読む。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Read the classical Japanese texts in the late 19th century, and acquire basic reading comprehension skills. Specifically, read the verses of Arai Ousui (1846-1922), a philosopher from Sendai.
5. 学習の到達目標：日本思想史研究に用いる史料を正確に読む上で必須となる知識・技術を習得する。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire the knowledge and skills that are essential for accurately reading historical materials used in the study of Japanese intellectual history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1) オリエンテーション
 - 2) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 3) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 4) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 5) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 6) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 7) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 8) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 9) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 10) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 11) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 12) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 13) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 14) 発表（現代語訳・語釈）と対話
 - 15) 発表（現代語訳・語釈）と対話
8. 成績評価方法：

平常点（発表・対話への参加度）[70%] 出席点 [30%]
9. 教科書および参考書：

教科書～『おうすいポケット 奥邃語録抄』からセレクトしたプリントを配布。
参考書～授業時に適宜紹介する。
10. 授業時間外学習：毎回必ずテキスト該当箇所を読みしっかり予習をした上で、授業に参加すること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：日本思想史各論／

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB51301, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：水平社・西光万吉論 I
2. Course Title (授業題目)：Study on The Suiheisha・Saiko Mankichi I
3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（『西光万吉集』からセレクト）と研究論文を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through dialogue based on presentations that carefully read the text (『西光万吉集』) and research papers.
5. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、時代的考察、テーマ設定など）を身に着ける。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire the basic research methods of the history of Japanese Philosophy.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：水平社・西光万吉について

第3回：映画『橋のない川』から

第4回：よき日のために（水平社創立趣意書）

第5回：人間は尊敬すべきものだ

第6回：業報にあえぐ 一大谷尊由氏の所論について。特に水平運動の誤解者へー

第7回：水平社が生まれるまで

第8回：農民運動の思い出

第9回：神に聴く政治運動1 ヴィヴェカナンダとガンジーの場合

第10回：神に聴く政治運動2 ガンジーとネールの場合

第11回：偶感雑記一九月二十八日夜よりー

第12回：不戦日本の「国際和栄政策」について

第13回：講演・人権の日に

第14回：略歴と感想、夫・西光の思い出、西光と和栄運動

第15回：住井すゑから

※第4～14回のテキストは、『西光万吉集』（解放出版社、1990）からの例示

定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点100%（出席40%、発表・討論60%）

9. 教科書および参考書：

教科書（テキスト）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本思想史各論／

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LB52401, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「学校」の思想史

2. Course Title (授業題目) : History of Thought Regarding Schools

3. 授業の目的と概要：現代人にとって、学校で学ぶことはあまりに当たり前の行為と化している。しかし、一人の教師が教壇に立ち、多数の学生に対して講義を行うことは、日本ではせいぜい明治時代になってから一般化した教育スタイルに過ぎない。また、学生個々の達成度を測るため、学期末に行われる試験も、前近代の日本社会では決して一般的ではなかった。本授業では、受講生たちに教育社会史の論文を精読させ、学校で学ぶという行為の意味を深く考察してもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : For modern people, learning at school has become a completely normal activity. However, having one teacher stand at the podium and give lectures to a large number of students is only an educational style that became common in Japan during the Meiji period. Additionally, exams held at the end of each semester to measure each student's level of achievement were by no means common in pre-modern Japanese society. In this course, students will be asked to carefully read papers on the social history of education and deeply consider the meaning of the learning at school.

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、学校という場において生じた歴史的な変遷を正しく理解し、その意義を多角的に評価できるようになることである。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The goal of this course is to correctly understand the historical changes that have occurred in schools, and to be able to evaluate their significance from multiple perspectives.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回 ガイダンスー「学校」を思想史的に考えるー

第 2 回 学校と卓越化の欲望（近世編）ー前田勉『江戸の読書会』を読む①ー

第 3 回 学校と画一性・多様性（近世編）ー前田勉『江戸の読書会』を読む②ー

第 4 回 学校と卓越化の欲望（近代編）ー竹内洋『立志・苦学・出世』を読む①ー

第 5 回 学校と画一性・多様性（近代編）ー竹内洋『立志・苦学・出世』を読む②ー

第 6 回 学校と知識人（近世編）ー渡辺浩『東アジアの王権と思想』を読むー

第 7 回 学校と知識人（近代編）ー荻部直『移りゆく「教養」』を読むー

第 8 回 学校のなかの道具（近世編①）ー青木美智男『日本文化の原型』を読むー

第 9 回 学校のなかの道具（近世編②）ー鈴木俊幸『江戸の読書熱』を読むー

第 10 回 学校のなかの道具（近代編①）ー佐藤秀夫『ノートや鉛筆が学校を変えた』を読む①ー

第 11 回 学校のなかの道具（近代編②）ー佐藤秀夫『ノートや鉛筆が学校を変えた』を読む②ー

第 12 回 学校のなかの道具（近代編③）ー佐藤卓己『テレビの教養』を読むー

第 13 回 学校のなかの自主と規律（近世編）ー辻本雅史『「学び」の復権』を読む①ー

第 14 回 学校のなかの自主と規律（近代編）ー辻本雅史『「学び」の復権』を読む②ー

第 15 回 まとめ

8. 成績評価方法：

本授業は、授業への参加度 30%、ミニットペーパー 30%、期末レポート 40%の割合で評価する。

9. 教科書および参考書：

使用する論文については、授業中に適宜指示する。

10. 授業時間外学習：全受講生は、授業ごとに指定する課題論文を事前に精読し、ミニットペーパーを提出すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本思想史各論／

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LB61301, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：水平社・西光万吉論Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Study on The Suiheisha・Saiko Mankichi II

3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（『西光万吉著作集』第3、4巻からセレクト）と研究論文（加藤昌彦『水平社宣言起草者西光万吉の戦後』所収など）を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through dialogue based on presentations that carefully read the text (from 『西光万吉著作集』第3、4巻) and reserch papaers (published in 加藤昌彦『水平社宣言起草者西光万吉の戦後』) .

5. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、時代的考察、課題設定など）を身に着ける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Acquire the basic research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：映画『橋のない川』（1969）から

第3回：和栄政策の起点（加藤書第1章）

第4回：平和省の提案と「和栄政策」の具体化（第2章）

第5回：社会党の平和政策としての「和栄政策」（第3章）

第6回：敬遠される和栄政策と支持される和栄政策（第4章）

第7回：「低開発国にたいする国際協力策」として（第5章）

第8回：西光万吉の最後の仕事-「老人の童話」について（第6章）

第9回：孔子の「夢」を思う（西光著作集第2巻）

第10回：戦時下雑感（第2巻）

第11回：不戦日本の自衛、再び不戦日本の自衛について（第3巻）

第12回：三たび不戦日本の自衛について、四たび不戦日本の自衛について（第3巻）

第13回：明治維新の百年記念と昭和維新のトンヤレ節（『西光万吉著作集』第4巻）

第14回：歳暮漫談・人道と科学＝続く理想と現実の悲喜劇（第4巻）

第15回：住井すゑから

※第3～8回の論文は、加藤昌彦『水平社宣言起草者西光万吉の戦後：非暴力政策を掲げつづけて』（明石書店、2007）からの例示。第9～14回のテキストは、加藤昌彦『西光万吉著作集』第2～4巻（涛書房、1972～1974）からの例示。

定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点100%（出席40%、発表・討論60%）

9. 教科書および参考書：

教科書（テキスト/論文）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：日本思想史各論／

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LB62402, 科目ナンバリング：LHM-PHI301J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：異界と他界の日本思想史

2. Course Title (授業題目) : History of Japanese Thought Regarding Another Worlds and Afterlife

3. 授業の目的と概要：現代人にとって「異世界」といえば、もっぱら漫画やアニメの重要素材とみなされるようになっているが、かつて異界（異空間）や他界（死後世界）が日本思想の形成に大きな影響を与えてきたことは間違いない。もともと、『日本書紀』に描かれる黄泉の国と、中世の仏教僧が語る極楽浄土とでは、同じ他界といっても、それらの性格は大きく異なる。日本人にとっての異界や他界は、歴史の流れのなかで、どのように変容していったのだろうか。本授業では、古代・中世の仏教説話を素材として、異界/他界観の変容を探り、さらにその歴史的な背景を検討してみたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : For modern Japanese people, another worlds are mainly seen as important materials for manga and anime, but there is no doubt that in the past, another worlds and the afterlife have had a great influence on the formation of Japanese thought. However, even though the land of Yomi described in the Nihon Shoki (Chronicle of Japan completed in 720) and the Pure Land described by medieval Buddhist monks are the same afterlife, their characteristics are very different. How have another worlds and afterlife changed over the course of history for the Japanese people? In this course, we will use ancient and medieval Buddhist tales as material to explore the transformation of the idea of another worlds and afterlife, and further examine its historical background.

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、古代・中世の仏教説話を正確に読み解き、日本人の心性とその変遷について考察できるようにすることである。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : The goal of this course is to be able to accurately read ancient and medieval Buddhist tales and consider the Japanese mentality and its changes.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス—日本思想史における生と死—

第2回：黄泉国の確立—『古事記』を読む①—

第3回：生者と死者の距離—『日本霊異記』を読む①—

第4回：仏教伝来と異界/他界の変容—『日本霊異記』を読む②—

第5回：肉体と魂の分離—『日本霊異記』を読む③—

第6回：富をもたらす異界—『古事記』を読む②—

第7回：病をもたらす異界—「備後国風土記逸文」を読む—

第8回：遠ざかる極楽浄土—『沙石集』を読む—

第9回：浄土を渴仰する人々—『発心集』を読む—

第10回：抜け出し得ぬ地獄—『今昔物語集』を読む①—

第11回：救済者としての地藏菩薩—『今昔物語集』を読む②—

第12回：山中で死者に出会う—『今昔物語集』を読む③—

第13回：自宅に死者を招く—『伽婢子』を読む—

第14回：再び接近する現世と異界/他界—『霊の真柱』を読む—

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

本授業は、1人1回ずつ担当する学生発表 60%、各授業中に行う史料読解力チェック 20%、ミニットペーパー20%の割合で評価する。

9. 教科書および参考書：

課題史料は、授業ごとにコピーを配付する。

10. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に発表準備を進める。

授業ごとに指定する課題史料は、受講生全員が事前に精読しておく。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本思想史演習／ History of Japanese Philosophy (Seminar)

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：引野 亨輔. 片岡 龍

コード：LB53305, 科目ナンバリング：LHM-PHI308J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought I

3. 授業の目的と概要：卒業論文作成の前段階として、受講生がそれぞれ自分の興味を持ったテーマについて、従来の代表的な研究や主要な史料を紹介する。また発表の準備を通じて、文献検索の方法や辞書等の使い方を学ぶとともに、そのテーマをめぐって研究史上どのような問題が残されているかを考える。発表後は、その内容について演習参加者が討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。参加者には積極的な発言を期待する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：As a preparatory step to preparing a graduation thesis, students will present their typical research and major historical materials on the topics they are interested in. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：卒業論文のテーマの決定

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Determining the thesis theme.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 研究発表 1
- 3 研究発表 2
- 4 研究発表 3
- 5 研究発表 4
- 6 研究発表 5
- 7 研究発表 6
- 8 研究発表 7
- 9 研究発表 8
- 10 研究発表 9
- 11 研究発表 10
- 12 研究発表 11
- 13 研究発表 12
- 14 研究発表 13
- 15 研究発表 14

8. 成績評価方法：

レポート [50%] 平常点 [50%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』(ぺりかん社) ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは1週間前、中間レジュメは前週金曜日、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：日本思想史演習／ History of Japanese Philosophy (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LB63304, 科目ナンバリング：LHM-PHI308J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought 2

3. 授業の目的と概要：前セメスターでの報告を踏まえ、演習参加者各自が、史料の読解にもとづくその後の研究成果を発表し、その内容をめぐって討論を行う。発表者は卒業論文に結びつくような、オリジナリティのあるレベルの高い報告を目指してほしい。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。演習参加者の活発な発言を期待する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Based on the report from the previous semester, each participant of the exercise will announce subsequent research results based on the reading of historical materials, and will discuss the contents. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：卒業論文作成の準備と研究内容の深化

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Preparation of graduation thesis and deepening of research contents

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表1
- 3、研究発表2
- 4、研究発表3
- 5、研究発表4
- 6、研究発表5
- 7、研究発表6
- 8、研究発表7
- 9、研究発表8
- 10、研究発表9
- 11、研究発表10
- 12、研究発表11
- 13、研究発表12
- 14、研究発表13
- 15、研究発表14

8. 成績評価方法：

レポート [50%] 平常点 [50%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』(ぺりかん社) ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは1週間前、中間レジュメは前週金曜日、本レジュメは1日前までに完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし